

2009年3月期 第3四半期決算説明会

2009年2月13日(金)
日本ハム株式会社

目 次

1. 2009年3月期 第3四半期累計連結業績の総括
2. 2009年3月期 通期の見通し
3. 2009年3月期 第3四半期財務データ

2009年3月期 第3四半期連結業績の総括

1. 2009年3月期 第3四半期累計連結業績概要
2. 2009年3月期 第3四半期累計連結業績概要《所在地別セグメント状況》
3. 2009年3月期 第3四半期累計連結業績ハイライト
4. オペレーティング・セグメント情報
5. 営業利益の実績計画差および通期修正計画差の要因分析
6. オペレーティング・セグメント情報 加工事業本部
7. オペレーティング・セグメント情報 食肉事業本部
8. オペレーティング・セグメント情報 関連企業本部
9. 海外 主要地域別業績実績

2009年3月期 第3四半期累計連結業績概要

(単位: 百万円、%)

《連結業績》	2008年3月期実績			2009年3月期第3Q累計実績及び通期修正計画					
	第2Q 累計実績	第3Q 累計実績	通期	第2Q 累計実績	前年 同期比	第3Q 累計実績	前年 同期比	通期 修正計画	前年比
売上高	505,167	795,830	1,029,694	535,705	6.0	818,440	2.8	1,050,000	2.0
ハム・ソーセージ	64,131	105,755	132,820	65,054	1.4	110,705	4.7	137,500	3.5
加工食品	92,387	142,284	185,734	94,690	2.5	145,607	2.3	189,500	2.0
食肉	272,365	426,813	555,372	307,285	12.8	453,628	6.3	581,500	4.7
牛肉	107,587	168,431	213,330	113,950	5.9	167,356	△ 0.6	208,000	△ 2.5
豚肉	106,088	163,289	213,839	115,449	8.8	169,454	3.8	223,500	4.5
鶏肉	48,148	78,506	106,669	66,877	38.9	99,638	26.9	128,000	20.0
その他食肉	10,542	16,587	21,534	11,009	4.4	17,180	3.6	22,000	2.2
水産	42,218	67,750	86,226	41,438	△ 1.8	66,406	△ 2.0	84,000	△ 2.6
乳製品	10,637	16,544	22,124	10,936	2.8	16,824	1.7	22,500	1.7
その他	23,429	36,684	47,418	16,302	△ 30.4	25,270	△ 31.1	35,000	△ 26.2
売上原価	413,336	646,320	840,512	430,975	4.3	658,367	1.9		
売上総利益	91,831	149,510	189,182	104,730	14.0	160,073	7.1		
売上総利益率	18.2%	18.8%	18.4%	19.5%	1.3	19.6%	0.8		
販売費及び一般管理費	85,559	130,846	171,413	84,477	△ 1.3	131,728	0.7		
営業利益	6,272	18,664	17,769	20,253	222.9	28,345	51.9	22,000	23.8
税引前利益(△損失)	2,078	12,645	7,769	11,350	446.2	14,230	12.5	7,000	△ 9.9
当期純利益(△損失)	△ 2,229	3,902	1,555	6,476	-	7,669	96.5	4,500	189.4

*米国会計基準を組替えて表示しております。

*前年比は、対前年増減率で表示しております。

*本資料におきまして、非継続となった事業に関して、2009年3月期第2四半期(2008年9月期)以前の損益を一部組替表示しています。

2009年3月期 第3四半期累計連結業績概要《所在地別セグメント状況》

(単位: 百万円、%)

《連結業績》	2008年3月期実績			2009年3月期第3Q累計実績及び下期・通期修正計画					
	第2Q 累計実績	第3Q 累計実績	通期	第2Q 累計実績	前年 同期比	第3Q 累計実績	前年 同期比	通期 修正計画	前年比
《所在地別セグメント状況》									
国内売上高	455,741	721,473	936,855	488,595	7.2	754,911	4.6%	971,000	3.6
外部顧客売上高	455,351	720,829	936,068	488,098	7.2	754,241	4.6%	-	-
セグメント間内部売	390	644	787	497	27.4	670	4.0%	-	-
国内営業利益	8,147	21,561	22,053	19,730	142.2	29,332	36.0%	-	-
国内売上高営業利益率	1.8%	3.0%	2.4%	4.0%	2.2	3.9%	0.9%	-	-
海外売上高	96,584	145,379	185,279	94,671	△ 2.0	133,810	△ 8.0%	171,000	△ 7.7
外部顧客売上高	49,816	75,001	93,626	47,607	△ 4.4	64,199	△ 14.4%	-	-
セグメント間内部売	46,768	70,378	91,653	47,064	0.6	69,611	△ 1.1%	-	-
海外営業利益	△ 2,131	△ 3,097	△ 4,444	551	-	△ 730	△ 76.4%	-	-
海外売上高営業利益率	-	-	-	0.6%	-	-	-	-	-

＊所在地別セグメント状況の売上金額は、セグメント間の内部売上高を消去する前の金額です。

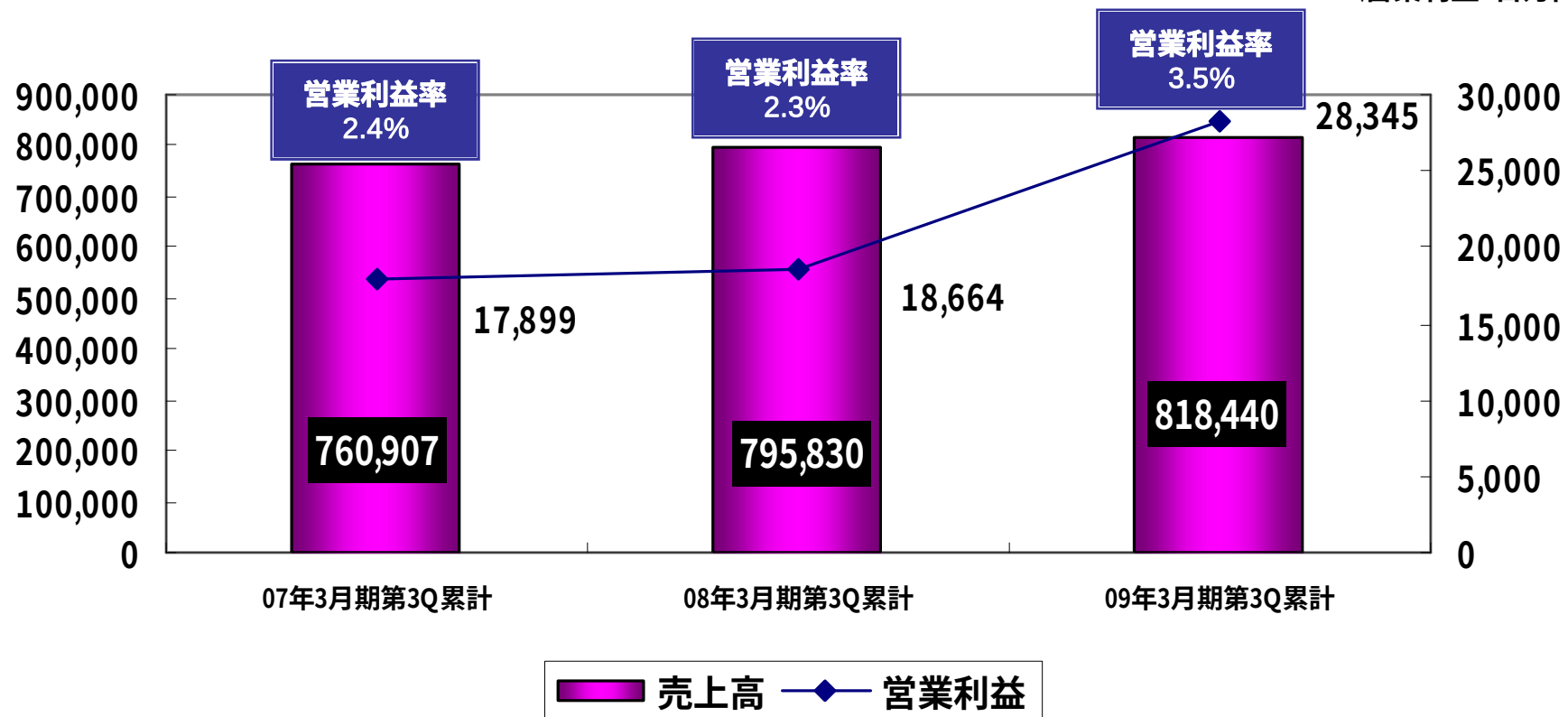
＊前年比は、対前年増減率で表示しております。

＊為替の影響を考慮した海外の外部顧客向け実質売上高は、前期比1.7%減となります。

[売上高 営業利益推移]

(売上高:百万円)

(営業利益:百万円)



◆オペレーティング・セグメント情報 [2008年4月～12月累計]

(単位: 百万円・%)

	2008年3月期 第3四半期累計実績			2009年3月期 第3四半期累計実績		
	売上高	営業利益	営業利益率	売上高	営業利益	営業利益率
加工事業本部	248,712	5,002	2.0	257,383	7,225	2.8
食肉事業本部	532,160	13,434	2.5	543,624	19,894	3.7
関連企業本部	103,492	△ 16	-	103,856	814	0.8
消去・調整他	△ 88,534	244	-	△ 86,423	412	-
連結合計	795,830	18,664	2.3	818,440	28,345	3.5

※オペレーティング・セグメント情報の売上高と、当資料P.3の品種別の売上高の数値は一致しません。

※各セグメントの売上高はセグメント間の内部売上高が含まれています。

※前年度の各セグメントの実績は、一部子会社の管轄事業部を変更したため、組替 再表示を行っております。

◆オペレーティング・セグメント情報 [2008年10月～12月四半期]

(単位: 百万円・%)

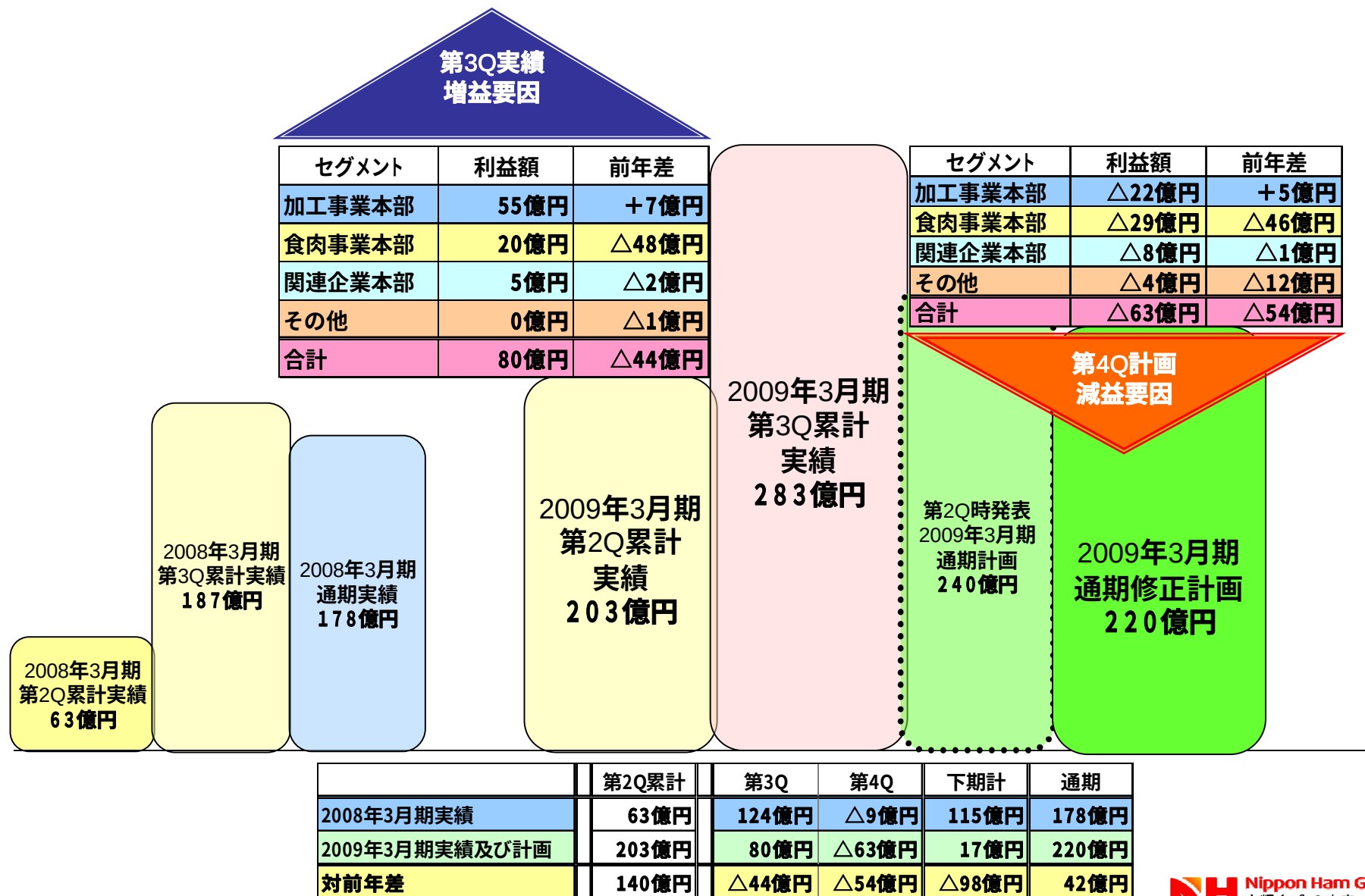
	2008年3月期 第3四半期実績			2009年3月期 第3四半期実績		
	売上高	営業利益	営業利益率	売上高	営業利益	営業利益率
加工事業本部	92,802	4,760	5.1	98,177	5,501	5.6
食肉事業本部	190,412	6,818	3.6	175,545	1,994	1.1
関連企業本部	38,179	674	1.8	38,389	509	1.3
消去・調整他	△ 30,730	140	-	△ 29,376	88	-
連結合計	290,663	12,392	4.3	282,735	8,092	2.9

※オペレーティング・セグメント情報の売上高と、当資料P.3の品種別の売上高の数値は一致しません。

※各セグメントの売上高はセグメント間の内部売上高が含まれています。

※前年度の各セグメントの実績は、一部子会社の管轄事業部を変更したため、組替 再表示を行っております。

営業利益増減要因 (第3四半期実績及び第4四半期計画)



【加工事業本部】

(単位: 百万円・%)

[4月～12月実績]	2008年3月期 第3Q累計実績	2009年3月期 第3Q累計実績	前年差	増減率
売上高	248,712	257,383	8,671	3.5
営業利益	5,002	7,225	2,223	44.4

(単位: 百万円・%)

[10月～12月実績]	2008年3月期 第3Q実績	2009年3月期 第3Q実績	前年差	増減率
売上高	92,802	98,177	5,375	5.8
営業利益	4,760	5,501	741	15.6

【売上高の状況】

- ・ハム・ソーセージ、加工食品とも、2007年9月からの価格改定及び2008年6月からの加工食品の一部の商品の規格変更の影響で、販売数量は減少。
- ・一方金額面では、単価上昇の効果と、重点カテゴリ集中による拡販、更には新商品および年末の歳暮ギフトの売上増の効果により、加工事業本部トータルでは対前年増減率3.5%の増収。

【営業利益の状況】

- ・前期に引き続き、原材料価格、資材・燃料価格の高騰があり、依然厳しい状況だが、価格改定やコスト削減策、重点カテゴリや新商品と歳暮ギフトの売上増の効果で、加工事業本部トータルでは対前年差約7億円の増益。

【食肉事業本部】

(単位:百万円・%)

[4月～12月実績]	2008年3月期 第3Q累計実績	2009年3月期 第3Q累計実績	前年差	増減率
売上高	532,160	543,624	11,464	2.2
営業利益	13,434	19,894	6,460	48.1

(単位:百万円・%)

[10月～12月実績]	2008年3月期 第3Q実績	2009年3月期 第3Q実績	前年差	増減率
売上高	190,412	175,545	△ 14,867	△ 7.8
営業利益	6,818	1,994	△ 4,824	△ 70.8

【売上高の状況】

- ・第3四半期は経済不況の影響で需要が落ち込み、相場は軟調、数量も減少。
- ・食肉事業トータルでは、上期の実績で第3四半期の落ち込みを補い、対前年増減率2.2%の増収。

【営業利益の状況】

- ・第3四半期は、世界的な経済環境が悪化したことで相場全体が軟調。その中でも特に輸入鶏肉の相場下落が大きく、大幅減益。
- ・食肉事業本部トータルでは、上期の好業績で第3四半期の落ち込みを補い、第3四半期累計では対前年差約65億円の増益。

【関連企業本部】

(単位:百万円・%)

[4月～12月実績]	2008年3月期 第3Q累計実績	2009年3月期 第3Q累計実績	前年差	増減率
売上高	103,492	103,856	364	0.4
営業利益	△ 16	814	830	-

(単位:百万円・%)

[10月～12月実績]	2008年3月期 第3Q実績	2009年3月期 第3Q実績	前年差	増減率
売上高	38,179	38,389	210	0.6
営業利益	674	509	△ 165	△ 24.5

【売上高の状況】

- ・マリンフーズは、外食産業の不振により寿司ネタが苦戦したが、内食回帰による量販店向けの売上増などでカバーし増収。
- ・宝幸は、チーズの価格改定効果や、国内工場産冷凍食品の伸長などにより増収。
- ・日本ルナは、市場での競争激化により、主力商品の売上が伸び悩み減収。

【営業利益の状況】

- ・水産、乳製品、ともに、原材料価格の高騰などにより、各社とも厳しい状況にあるが、水産加工品やチーズの価格改定などの利益改善策を着実に実施し、関連企業本部トータルで約8億円の増益。

[海外 主要地域別売上高]

(単位: 百万円・%)

	2008年3月期 第3Q累計実績	2009年3月期 第3Q累計実績	前年差	増減率
海外売上高計	145,379	133,810	△ 11,569	△ 8.0
豪州	65,395	53,440	△ 11,955	△ 18.3
米州	59,028	56,816	△ 2,212	△ 3.7
その他地域	24,806	26,309	1,503	6.1

※売上金額は、セグメント間の内部売上高を消去する前の金額です。

※海外売上は、豪州と米州で約80%前後を占めております。その他海外は、アジア、欧州となっております。

※米州には、北米と南米の事業が含まれます。

[海外 主要地域別の売上高の状況]

- ・豪州は、世界的な経済不況に伴う牛肉出荷量の減少と、皮革事業の販売数量減などにより、18.3%の減収。
- ・米州は、豚生体相場低迷の長期化などにより、3.7%の減収。

[地域別利益の状況]

- ・豪州は、コスト削減策や生産性の改善策の実施により増益。
- ・米州は、養豚事業の飼料価格高騰と豚生体相場低迷により減益。
- ・海外トータルでは、約7億円の赤字だが、前年比では約24億円の改善。

2009年3月期 通期の見通し

1. 加工事業本部 今後の見通し
2. 食肉事業本部 今後の見通し
3. 関連企業本部 今後の見通し

●売上の拡大策

・歳暮ギフトの実績

⇒ 今期歳暮ギフトの販売個数は、
前年比14%増の5,157千個。

・主要ブランド・新商品の拡販

[09年3月期第3Q累計 主要ブランド商品売上高前年比]

シャウエッセン群	105%	石窯工房群	127%
森の薫りウィンナー	115%	中華名菜群	94%
ウィニー群	101%	プリフライ群	103%
これは便利群	99%	ハンバーグ・ミートボール群	91%

・チャネル別の売上状況

[09年3月期第3Q累計 チャネル別売上金額伸び率]

	コンシューマー	業務用	計
ハム・ソーセージ	107%	95%	105%
加工食品	101%	107%	104%

[ギフト販売個数 08年3月期実績と09年3月期実績]

(単位: 千個・%)

	08年3月期実績	09年3月期実績	前年比
中元	1,601	1,696	106%
歳暮	4,512	5,157	114%
合計	6,113	6,853	112%

⇒ TVCM効果もあり、**シャウエッセン**は特に好調。

新年度も**25周年のTVCM**を投入し、更なる拡販を図る。

「美ノ国」をはじめとした高付加価値ギフトも定期的にCMを投入し、定着を図る。

新商品は、**「新鮮生活ZERO」**等コンセプト明確な商品で、単味品のシェア拡大を図る。

⇒ 内食化傾向に対応し、健康志向商品、少量パック商品など、コンセプトを明確にした商品を投入。

新商品数量構成比10%確保を目指す。

また、生活防衛型商品にも対応し、売上拡大に繋げる。

●主原料・副資材価格の高騰額見込み

・第2四半期時の見通し : 通期91億円のコストUP



・第3四半期時の見通し : 通期76億円のコストUP

●コスト吸収政策の進捗 (価格改定の進捗)

・第2四半期時の計画 : 通期で93億円の改善計画



・第3四半期時の見通し : 通期で103億円の改善計画

	第3四半期時 通期見込み額	第3Q累計 高騰額
主原料価格上昇額	38億円	34億円
資材価格・物流費等上昇額	38億円	31億円
合計	76億円	65億円

・第3Q累計の高騰額は、**約65億円**となった。

	2009年3月期 第3Q時通期計画	2009年3月期 第3Q累計実績
製造部門等の改善活動効果額計画	40億円	33億円
価格改定効果額計画	47億円	40億円
構造改革効果額計画	7億円	6億円
品種統廃合効果額計画など	4億円	3億円
ギフトの売上増による増益	5億円	5億円
合計	103億円	87億円

・第3Q累計では**約87億円**の効果額で、コスト上昇額を吸収した。

●海外事業の見通し

◆豪州事業の見通し

⇒ 世界経済の悪化による需要減により、厳しい環境が続く。

◆米州事業の見通し

⇒ 米国内の需給のアンバランス化により、来上期まで、生体相場が回復せず、厳しい環境。

●海外事業の状況

◆豪州事業の状況

- ・ [牛肉事業]
世界経済悪化により、特にロシアなどの新興国の需要が減少。
資産の売却等の施策を実施したが、収支の見通しは引き続き厳しい。
- ・ [皮革事業]
世界経済の低迷により、自動車向けレザーシートや家具向け需要が急減し、相場が大幅下落。
皮革事業全体の見直しを含め、事業の再構築を検討中。

◆米州事業の状況

- ・ [養豚事業]
全米ではある程度母豚の淘汰が進み、出荷頭数は減少しつつあるが、飼養頭数は例年と比較するとまだまだ高水準。
豚価を支えてきた輸出需要が世界景気の後退により縮小し、秋口に相場急落し低迷継続。
- ・ [肥育コスト]
足元の穀物相場は下がっているが、実際に出荷される生体のコストに反映されるのは、来期以降。
今期中は、コスト高が継続するため、収支は厳しい。

●国内事業の見通し

◆国内生産事業の見通し

⇒ 景気低迷による需要減や輸入物へのシフトの影響で、豚、鶏ともに相場が軟調に推移。

一方、生産コスト高は来期まで継続するため、来上期までは厳しい環境となる。

◆国内販売事業の見通し

⇒ 輸入食肉は、相場下落により厳しい環境となる。

一方国内食肉は、引き続き好調を維持する見込み。

●国内事業の状況

◆国内生産事業の状況

・[養豚事業]

- ① 昨年夏までの国産豚肉の相場高騰により輸入物が増加。
 - ② 秋口には世界的な景気後退発生し、需要が減退。
 - ③ ワクチン効果により生体の出荷頭数が増加。
- ⇒ 以上の理由により、相場は当初想定以上の下落。

・[養鶏事業]

- ・ 昨年夏まで国内鶏肉相場は高騰。増加した輸入鶏肉とも共存し、史上最高値圏で推移。
 - ・ だが、秋口以降急速な景気後退で輸入鶏肉相場が暴落。
- ⇒ 国産の出荷増、順調な生育、過剰在庫など、供給過多の状況となり相場は軟調。

・[飼料価格]

飼料価格低下の効果は、来上期以降から出て来るが、相場も合わせて下がる見通し。

◆国内販売事業の状況

・[輸入食肉販売]

- ① 世界経済の悪化によって需要急減、国際相場急落。
- ② 下期は「輸入仕入れ高・販売相場安」の環境となっており、販売相場は依然として下げ基調。

〔仕入れと販売のタイムラグ〕

下期については、特に輸入鶏肉、輸入牛肉において、仕入れ時期と売上時期のタイムラグにより、逆ザヤが発生。来上期中に在庫は一巡する見通し。

・[国内食肉販売]

国内食肉については、堅調に推移する見込み。

●水産事業の現状

- ・外食産業の不振により、寿司ネタが伸び悩んだが、内食回帰により、量販店向けは伸長。
価格改定やコスト削減の効果もあり、収益は改善。

●今後の見通し

- ・世界経済の悪化による消費の冷え込みから、短期的には需給バランスが崩れているが、長期的には需要増が見込まれるため、安定的な原料調達体制の構築に向けて、自社の川上部門の強化を図る。
- ・国内でのマグロ養殖は、順調に生育しており、来期下期以降に水揚げの見込み。
ブランド名を付けて、高付加価値の差別化商品として拡販を計画している。
- ・全国50箇所以上の営業拠点の冷凍庫を活かし、超低温商品を中心に売上拡大を図る。

●乳製品事業の現状

- ・チーズは、価格改定の浸透が進み、売上・利益ともに改善傾向。
- ・ヨーグルトは、新商品は好調に推移するものの、主原料不足と、原料価格の高騰により厳しい状況。

●今後の見通し

- ・乳製品原料価格は、今後は少し落ち着く見通しだが、その効果は来期以降に出る。
- ・チーズは、ベーカリーチャネルを中心に拡販を図る。
- ・ヨーグルトは、柱となる新規ブランドを立ち上げ、定着を図る。

●主原料・副資材価格の上昇額見込み

・第2四半期時の見通し : 通期 22億円のコストUP



・第3四半期時の見通し : 通期 30億円のコストUP

	第3四半期時 通期見込み額	第3Q累計 高騰額
水産原料上昇額	2億円	2億円
乳製品原料上昇額	28億円	24億円
合計	30億円	26億円

・第3四半期累計の上昇額は、約26億円となった。

3. 2009年3月期 第3四半期財務データ

1. 販管費・その他収益・その他費用

2. 貸借対照表、設備投資額・減価償却費

連結業績概要 (販管費・その他収益・その他費用)

(単位: 百万円、%)

《販管費》	2008年3月期	2009年3月期		
	第3Q累計実績	第3Q累計実績	対前年増減率	対前年増減額
販売費及び一般管理費	130,846	131,728	0.7	882
人件費	55,057	52,263	△ 5.1	△ 2,794
販売促進費	11,114	12,219	9.9	1,105
物流費	26,991	28,564	5.8	1,573
その他	37,684	38,682	2.6	998

主な増減要因

- ・販管費は前期比約9億円の増加となったが、販管費率は0.3ポイント低下。
 - ・人件費 : 転籍効果及び子会社退職給付費用の減少などにより、約28億円減少。
 - ・販売促進費 : ギフトを含む年末商戦に向けた計画的な広告宣伝の投入により約11億円増加。
 - ・物流費 : 燃料費の高騰による運送費の増加により、約16億円増加。

(単位: 百万円、%)

《連結その他収益・その他費用》	2008年3月期	2009年3月期		
	第3Q累計実績	第3Q累計実績	対前年増減率	対前年増減額
その他収益合計	885	1,134	28.1	249
受取利息・配当金	731	866	18.5	135
その他	154	268	74.0	114

支払利息	2,066	1,971	△ 4.6	△ 95
その他費用合計	4,838	13,278	174.5	8,440
有価証券評価損	217	458	111.1	241
固定資産減損	43	1,401	3,158.1	1,358
特別退職金	3,294	1,721	△ 47.8	△ 1,573
為替差損	—	9,500	—	9,500
その他	1,284	198	△ 84.6	△ 1,086

主な増減要因

- ・その他費用 : 特別退職金は減少したものの、急激な為替相場の変動による為替差損や、固定資産減損が発生したため、トータルでは約84億円増加。

連結業績概要 (貸借対照表、設備投資額・減価償却費)

(単位: 百万円、%)

《連結貸借対照表》	2008年3月期 期末実績	2009年3月期 第3Q末実績	対前期末 増減率	対前期末 増減額
資産合計	608,809	638,509	4.9	29,700
現金及び現金同等物	44,249	26,662	△ 39.7	△ 17,587
売上債権	110,084	158,504	44.0	48,420
棚卸資産	112,218	126,893	13.1	14,675
投資及び長期債権	31,722	30,387	△ 4.2	△ 1,335
有形固定資産	246,874	234,521	△ 5.0	△ 12,353
長期繰延税金資産	12,954	12,837	△ 0.9	△ 117
負債合計 (少数株主持分含む)	321,352	351,814	9.5	30,462
支払手形及び買掛金	87,296	122,188	40.0	34,892
有利子負債	183,539	176,600	△ 3.8	△ 6,939
退職金及び年金債務	14,299	13,967	△ 2.3	△ 332
資本合計	287,457	286,695	△ 0.3	△ 762

主な増減要因

- ・棚卸資産 : 季節変動要因による食肉在庫の増加などにより、約147億円増加。
- ・売上債権 : 売上高増加のため、約484億円増加。
- ・有利子負債 : 短期借入金増加、社債償還、長期借入金返済により69億円減少。

(単位: 百万円、%)

《設備投資額、減価償却費》	2008年3月期 第3Q累計実績	2009年3月期 第3Q累計実績	対前年増減率	対前年増減額	2009年3月期 通期計画
設備投資額	14,550	15,838	8.9	1,288	21,000
生産設備	5,118	6,419	25.4	1,301	8,400
販売・物流設備	1,343	2,338	74.1	995	3,400
ファーム・処理設備	3,499	2,387	△ 31.8	△ 1,112	2,900
海外事業設備	1,903	1,265	△ 33.5	△ 638	2,600
その他設備	2,687	3,429	27.6	742	3,700
減価償却費	17,676	17,631	△ 0.3	△ 45	24,000

お問合せ先
〒141-6014 東京都品川区大崎2-1-1
ThinkPark Tower 14階
日本ハム株式会社 広報IR部
電話:03-6748-8024
FAX:03-6748-8189

見通しに関する注意事項

この資料には、当社の将来についての計画や戦略、業績に関する見通しの記述が含まれています。

これらの記述は当社が現時点で把握可能な情報から判断した仮定及び所信に基づく見通しです。

また、経済環境、市場動向、為替レートなどの外部環境の影響があります。

従って、これら業績見通しのみに全面的に依拠することはお控え頂きますようお願い致します。

また、実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績見通しと異なる結果となりうることをご承知おき下さい。